

再起かけける経営者

岩手・久慈から招きセミナー

「生の声」を聞いて

あすから銀座で

東日本大震災で工場全壊など壊滅的被害を受けた岩手県久慈市の縫製会社社長や、加工場や家などを失った宮城県石巻市の若手漁師らが、再起への思いを語るセミナー「東日本大震災の被災者の『生の声』を聞こう!」が九、十の両日に計三回、東京・銀座で開かれる。

被災した中小企業をい、多くの人に現地の支えようと、全国の企業経営者らが結成した一般社団法人「チームともだち」(埼玉県吉川市)が主催。復興に歩み始めた被災者を東京に招いて話してもら

九日午後一時からは、有名ブランドの女性水着の縫製を手掛けてきた「久慈ソーイング」の中田利雄社長が



久慈ソーイングの中田利雄社長(チームともだち提供)

話す。電子ミシン百台が水につかって使えなくなり、約五十人の従業員を解雇。息子と二人でシャツの仕事に挑戦し、今では従業員十五人を雇って再び水着の仕事に取り掛かろうとしている。

十日午後一時からは石巻市の小学校教諭が、子どもたちの心の変化を語る。同二時四十分からはワカメ養殖場として栄えた同市大指地区の二十代の漁師二人が、震災前の状態に戻すだけでなく、漁業の魅力を地元の若者に感じてもらえる復興を目指す思いを語るという。

会場は中央区銀座三の銀座文祥堂イベントホール。入場無料、申し込み先着順で定員各百二十人。参加希望者はホームページ「アドレス<http://tomodachi.in/event>」などから申し込む。

問い合わせはチームともだち＝電03(5778)4871＝へ。

(加藤益丈)